

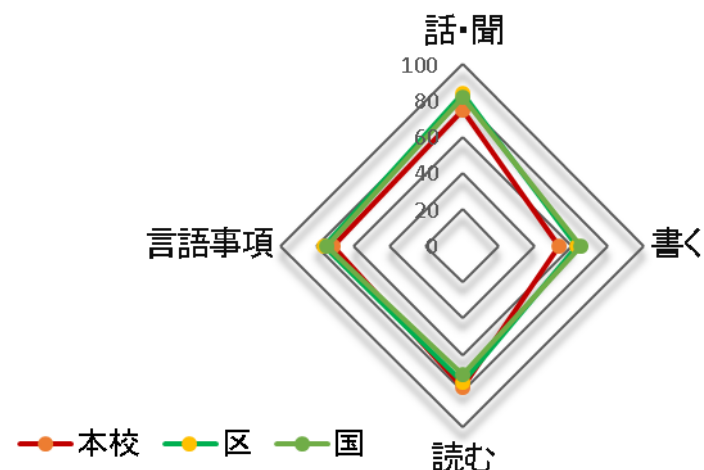
平成28年度 台東育英小学校 授業改善プラン

第4学年 国語

1 結果の分析

- ・話の中心に気を付けて内容を聞き取る力は身に付いている。
- ・物語や説明文の内容を読み取る力は身に付いている。
- ・第3学年配当漢字の読み書きは概ね身に付いている。
- ・ローマ字の読み書き、国語辞典の使い方課題が見られる。
- ・メモをもとに発表原稿を書くこと、段落の構成を考え、書こうとする理由を挙げて指定された長さで文章を書くことには課題が見られる。

2 課題と改善策



	課題	課題に対する改善策	今年度の成果(○)と課題(△) 来年度に向けての改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・段落の構成を考え、理由を明らかにして、決まった長さの文章を書けるようにすること。(書くこと) ・資料を読み取って発表に必要な原稿を書けるようにすること。(話すこと・聞くこと・書くこと) ・ローマ字の読み書きができるようにすること。(言語) ・国語辞典の使い方を理解すること。(言語) 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内作文集「ひらく」の執筆指導や行事後の作文執筆指導等では、段落の組み立てメモを作成してから書くようにする。日常のノート指導においても、書く字数を定めて文を書く指導を取り入れる。 ・スピーチに関する単元を活用し、話す内容に合った資料を選択したり、順序立てて話せるように原稿を書いたりする活動を取り入れる。他教科でも調べたことを発表する機会を意図的に設定していく。 ・ローマ字に日常的にふれられるように教室掲示等で環境を整える。家庭学習も計画的に行うようにする。 ・校内作文集「ひらく」の作成時にローマ字入力を指導する。 ・各単元の導入時には、意味の分からない語句を国語辞典で調べる活動を必ず取り入れる。日常的に国語辞典、漢字辞典が活用できるように教室内に常備しておく。 	<p>※3学期に改善策を評価して考察します。</p>

3 改善策の検証

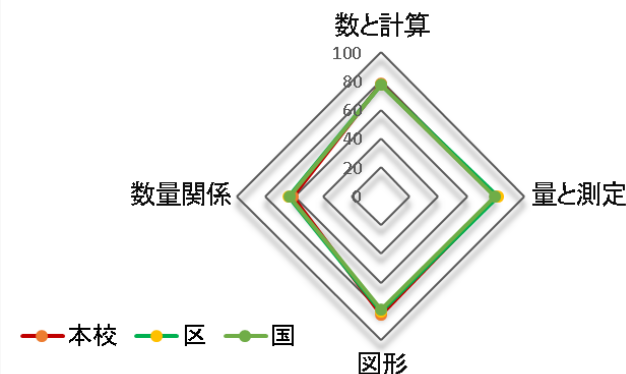
- ・東京ベーシックドリル、区のフォローアップシートや単元テストを活用し、9割以上の児童の正答率100%を指標として確認する。
- ・授業中の発表やノートの記述が、学習のめあてに即しているか確認する時間を設ける。不十分な場合は、朝学習において個別指導し、再度、確認テストを行って定着を確認する。
- ・家庭学習の状況を常に把握しながら、ミニテストを行い、学習の定着を確認する。不十分な場合は、個別指導し再度確認テストを行い、定着を確認する。

平成28年度 台東育英小学校 授業改善プラン

第4学年 算数

1 結果の分析

- ・整数の加法、減法、除法や小数、分数の加法、減法の技能は、概ね身に付けられている。
- ・二等辺三角形を作図すること、円の半径や直径の理解、その直径の長さから箱の辺の長さを求めることなどについては、前年度よりも理解が向上した。
- ・□を使った式の理解、計算のしかたを説明すること、棒グラフをかいたり読み取ったりすることなどに課題のある児童が見られる。



2 課題と改善策

	課題	課題に対する改善策	今年度の成果(○)と課題(△) 来年度に向けての改善策
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・ □を使った乗法の式と文章問題を結びつけて考えること。(数量関係) ・ 道のりの意味を理解し、地図から道のりを読み取って、その和を求めること。(量と測定) ・ 場面を表した図から立式したり学習したことを使って問題解決したりすること。(数と計算) ・ 棒グラフをかくこと、読み取ること。(数量関係) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章問題から立式させること、問われていることは何かをはっきりさせること、□を使うとどのような式になるのかなどの学習を意図的に取り入れて、くり返していく。 ・ 朝学習や放課後学習等の補充学習において復習する時間を設け、道のりの意味を理解させ、図の中から必要な情報を選び取って計算するなどの学習を意図的に取り入れる。 ・ 自分の考えを図、線分図等で表現できる場を取り入れたり、児童相互の学び合いの場を設けたりして、思考力を高め合う授業の工夫を行う。 ・ 朝学習の時間に棒グラフの学習を行い、家庭学習で計画的に練習させる。 	<p>※3学期に改善策を評価して考察します。</p>

3 改善策の検証

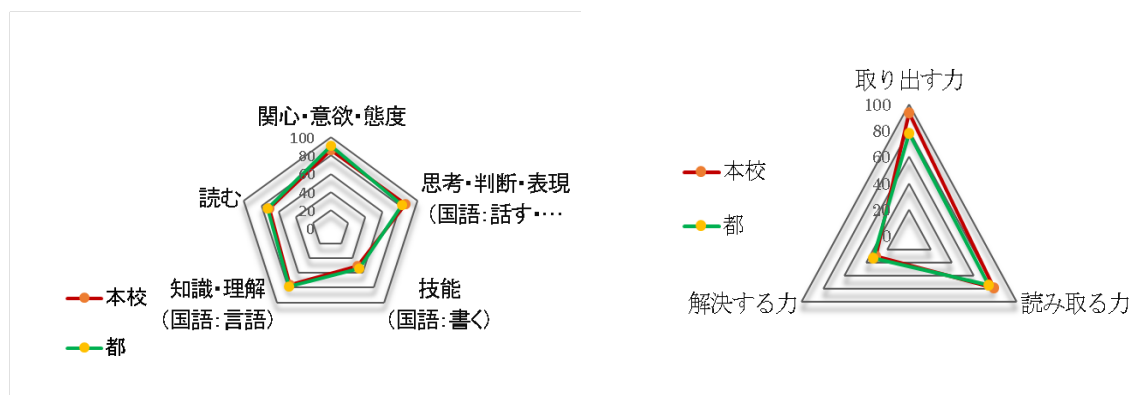
- ・ 東京ベーシックドリル、区のフォローアップシートや単元テストを活用し、9割以上の児童の正答率100%を指標として確認する。
- ・ 単元前後のレディネステストやミニテストを活用し、学習のめあてが理解されているか確認する時間を設ける。不十分な場合は、放課後学習を活用して個別指導し、再度、確認テストを行って定着を確認する。
- ・ 家庭学習の状況を常に把握しながら、ミニテストを行い、学習の定着を確認する。不十分な場合は、個別指導し再度確認テストを行い、定着を確認する。

平成28年度 台東育英小学校 授業改善プラン

第5学年 国語

1 結果の分析

- ・話の中心となる情報を聞く力は、話の聞き方の指導の成果があらわれている。
- ・漢字の読み書きでは、個人差が大きく、既習事項の定着が不十分である。
- ・書きたいことが正しく伝わるように、主語と述語の働きを考えて文章を書く力を確実なものにすることが課題である。
- ・2つの資料から、筆者の考えを理解、解釈した上で、目的に応じて文章をまとめる力を高める必要がある。



2 課題と改善策

	課題	課題に対する改善策	今年度の成果 (○) と課題 (△) 来年度に向けての改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に質問をする際、よりくわしく聞いていくこと (話す・聞く) ・主語と述語の働きを考えた正しい文章を書くこと (書く) ・いくつかの資料から、筆者の考えを理解したり、解釈したりして、目的に応じた文章にまとめること (書く) ・学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり、書いたりすること (言語) 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の1分間スピーチを継続的に行い、話し手の意図を考えた感想を述べる機会を設けているが、スピーチの内容について、よりくわしく知るための質問を重視していく。 ・自分の考えや読み取った内容を文章に表す活動を多く取り入れるとともに書いた文章を推敲させ、添削したものと比較することで、書く力の向上を図る。 ・台東区漢字検定や漢字ドリルを繰り返し活用するとともに小テストを行い、定着を図る。 	<p>※3学期に改善策を評価して考察します。</p>

3 改善策の検証

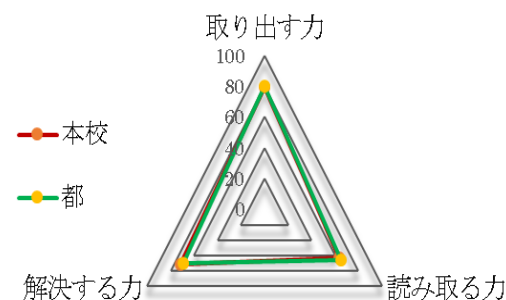
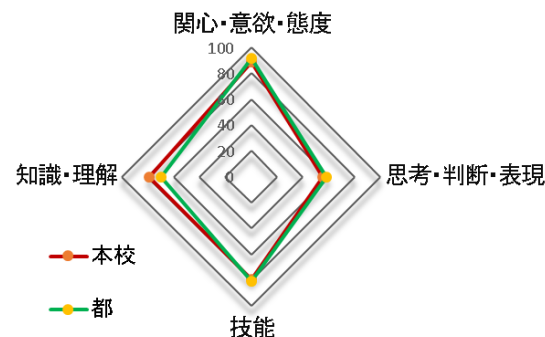
- ・東京ベーシックドリルや単元テスト、10問テストを活用し、9割以上の児童の正答率100%を目標として確認する。
- ・テストの結果が不十分な場合は、個別指導し、再度、確認テストを行って定着を確認する。
- ・朝の1分間スピーチで、話し手の意図を考えた感想を述べる場合、スピーチの内容について、よりくわしく知るための質問を促していく。
- ・家庭学習の状況に応じてミニテストを行い、学習の定着を確認する。不十分な場合は、個別指導し再度確認テストを行い、定着を確認する。

平成28年度 台東育英小学校 授業改善プラン

第5学年 社会

1 結果の分析

- ・5年当初に都道府県の学習を繰り返し復習した結果、都道府県の名称と位置の理解が深まり、定着が図られたが、個人差が大きい。
- ・1つ1つの資料を読み取ることはできている。
- ・複数の資料を比較関連付けて読み取る力を伸ばすことが課題である。
- ・身近な経験と関連付けながら学習することで「社会的事象についての知識・理解」が深まってきている。資料活用力の向上を図ることで、さらに「社会的な思考・判断・表現」の力を高めることが課題である。



2 課題と改善策

	課題	課題に対する改善策	今年度の成果(○)と課題(△) 来年度に向けての改善策
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県の名称と位置の理解は定着が図られているが、個人差が大きいこと、地域と特産物などの特徴と関連付けて定着、理解を深めること。(知識) ・様々な資料のよさを理解し、適切に読み取ることができるようにすること、また、読み取ったことを分かりやすくまとめること(思考・判断・表現) 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業、畜産業、漁業、工業の学習で扱う地域について、地図帳を活用し、場所を確認しながら、特産物などと関連させて特徴を白地図にまとめる活動を取り入れる。 ・複数の資料から読み取れることを発表させたり文章でまとめさせたりする活動を通して、1つの資料から読み取ったり、複数の資料から読み取り、まとめたりする活動を取り入れていく。 	<p>※3学期に改善策を評価して考察します。</p>

3 改善策の検証

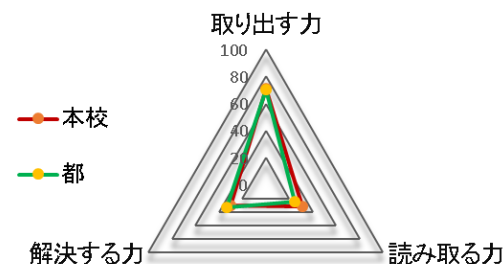
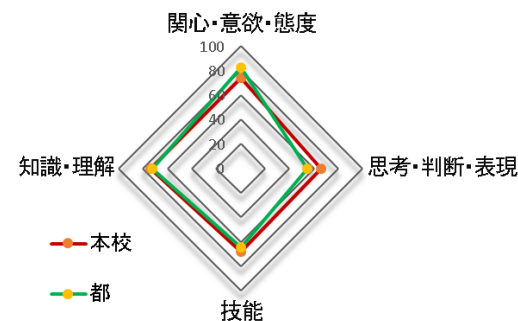
- ・東京ベーシックドリルや単元テストを活用し、9割以上の児童の正答率100%を目標として確認する。
- ・授業中の発表やノートの記述が、学習のめあてに即しているか確認する時間を設ける。不十分な場合は、朝学習等の時間に個別指導し、再度確認テストを行って定着を確認する。
- ・家庭学習の状況を常に把握しながら、学習の定着を確認する。不十分な場合は、朝学習等の時間に個別指導し再度確認テストを行い定着を確認する。

平成28年度 台東育英小学校 授業改善プラン

第5学年 算数

1 結果の分析

- 立体の面や辺の位置関係については、デジタル教科書や具体物を使った学習の結果があらわれている。
- 数量や図形についての技能では、帯分数を仮分数に直してから計算すること等、四則混合計算のきまり、小数のかけ算、わり算の技能が未習熟児童が3割から4割に及んでいる。
- 問題の場面から情報を取り出すことはできるが、その情報から表にまとめ、3つの量の変わり方のきまりを見つけないことが不十分である。
- 意図や背景、理由を理解、解釈、推論して解決する力や比較、関連付けて読み取ることが不十分である。



2 課題と改善策

	課題	課題に対する改善策	今年度の成果(○)と課題(△) 来年度に向けての改善策
算数	<ul style="list-style-type: none"> 帯分数と仮分数の計算、四則混合計算、小数のかけ算、わり算などの計算を正確にできるようにすること (数と計算) 複合図形の面積を求める式と、その考え方を表す図を関連付けて考えること (図形) 問題文の意図をよく考えて解決する力や、比べたり関連付けたりして読み取る力が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習の時間を活用し、東京ベーシックドリルに繰り返し取り組ませていくことで、計算が正しくできるようにしていく。 計算ドリルや教科書の練習問題を活用したり、台東区計算検定に取り組んだり、朝学習や放課後学習等で個別指導を行ったりすることを通して確実な計算力の定着を図る。 授業の中で、自力解決の時間を十分に取るとともに、集団検討の場面で説明する際に、異なる求め方を考えた児童に、その考え方を表す表と図と式を関連させて発表する機会を設ける。 	<p>※3学期に改善策を評価して考察します。</p>

3 改善策の検証

- 東京ベーシックドリルや単元テストを活用し、9割以上の児童の正答率100%を目標として確認する。
- 単元前後のレディネステストやミニテストを活用し、学習のめあてが理解されているか確認する時間を設ける。不十分な場合は、個別指導し、再度、確認テストを行って定着を確認する。
- 生活、学習パワーアップカードを各学期に活用したり、家庭学習の状況を常に把握したりしながら、学習の定着を確認する。不十分な場合は、個別指導し再度確認テストを行い定着を確認する。

平成28年度 台東育英小学校 授業改善プラン

第5学年 理科

1 結果の分析

- ・自然事象への関心、意欲、態度は高いが、昆虫の体のつくりの特徴や育ち方についての理解や電気を通す物は金属であること、太陽は東の方から南の空を通過して西の方へ動くこと、自然事象についての知識、理解が不十分である。
- ・気温の正しい計り方、記録温度計の読み取り方、最座早見表の正しい使い方など、観察、実験の技能が不十分である。
- ・意図や背景、理由を理解、解釈、推論して解決する力や実験の結果と予想を比較、関連付けて考える力が不十分である。



2 課題と改善策

	課題	課題に対する改善策	今年度の成果 (○) と課題 (△) 来年度に向けての改善策
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・意図や背景、理由を理解、解釈、推論して解決する力や実験の結果と予想を比較、関連付けて考えるようにすること (思考・表現) (観察・実験の技能) ・実験、観察器具を正しく扱うことができるようにすること (観察・実験の技能) ・昆虫の体のつくりの特徴や育ち方についての理解や電気を通す物は金属であること、太陽は東の方から南の空を通過して西の方へ動くこと、自然事象に親しむことで、知識をさらに深めていくこと (知識・理解) 	<ul style="list-style-type: none"> ・結実の学習での観察・実験の条件の統一では、何が必要か考え表に整理していく活動を取り入れるなど、実験、観察における条件の統一についての意味を確実に理解することで、さらに自然事象についての思考を深めていく。 ・一人一人の児童が適切に操作できるよう少人数での活動を取り入れる。 ・5年で学習する天気の変化、生命のつながり、電磁石の性質などの学習の際、既習内容と関連させた授業を行う。 ・学習した事柄と日常生活の様々な事柄を関連付け、身の回りの自然事象を理解するようにする。 	<p>※3学期に改善策を評価して考察します。</p>

3 改善策の検証

- ・東京ベーシックドリルや単元テストを活用し、9割以上の児童の正答率100%を目標として確認する。
- ・授業中の発表や観察カード、実験への取り組み方などが、学習のめあてに即しているか確認する時間を設ける。不十分な場合は、朝学習の時間に個別指導し、再度、確認テストを行って定着を確認する。
- ・生活、学習パワーアップカードを各学期に活用したり、家庭学習の状況を常に把握したりしながら、学習の定着を確認する。

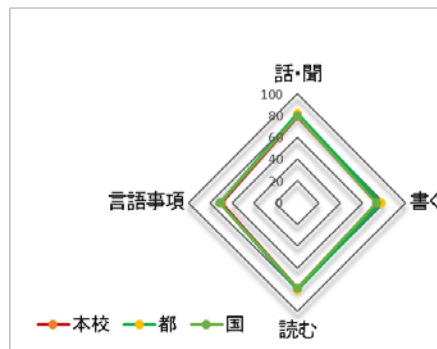
平成28年度 台東育英小学校 授業改善プラン

第6学年 国語

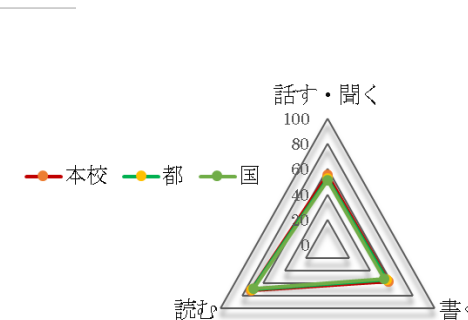
1 結果の分析

- ・学年別漢字配当表に示されている漢字の読み書きについては、概ね身に付いているが、普段あまり使わない漢字（親しい）を読めない児童もいる。
- ・ローマ字の読み書きの正答率が低い。特に、ローマ字を書くことについては、正答率が3，4割になっている。
- ・「書くこと」の正答率が低い。目的や意図に応じて、書く事柄を整理することや表を基に、自分の考えを書くことができていない。

国語A問題



国語B問題



2 課題と改善策

	課題	課題に対する改善策	今年度の成果 (○) と課題 (△) 来年度へ向けての改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じた文章を書くこと (書く) ・目的や意図に応じて、伝えたいことを明確に表現すること (書く) (話す) ・ローマ字の正しい読み方・書き方が理解できていないこと (言語事項) ・「親」(おや)は読めるが、「親しい」(したい)となると読めない児童が多いこと (言語事項) 	<ul style="list-style-type: none"> ・作文単元だけでなく、自主学習での日記を書く活動を定期的に取り入れる。 ・「何のために」「誰に」「何を伝えたいのか」をめあてにして文章を書いたり、話したりすることを常に意識させていく。 ・朝のスピーチを継続的に行い、題名を付けさせ、伝えたいことを明確にして行うようにする。 ・定期的に宿題を出し、定着をミニテストで図る。英語の時間に、名前だけではなく、ローマ字で書くことの活動を意図的に取り入れる。 ・校内作文集「ひらく」の作成時にローマ字入力を指導する。 ・ミニテスト、漢字検定の活用などの取り組みを継続するとともに、音読み、訓読みの場合についても扱い、さらに定着を図る。 	<p>※3学期に改善策をもとに考察します。</p>

3 改善策の検証

- ・東京ベーシックドリル、区のフォローアップシートや単元テストを活用し、9割以上の児童の正答率100%を指標として確認する。
- ・授業中の発表やノートの記述が、学習のめあてに即しているか確認する時間を設ける。不十分な場合は、個別指導し、再度確認テストを行って定着を確認する。
- ・「生活・学習パワーアップシート」を活用し、家庭学習の状況を常に把握しながらミニテストを行い、学習の定着を確認する。不十分な場合は、個別指導し再度確認テストを行い定着を確認する。

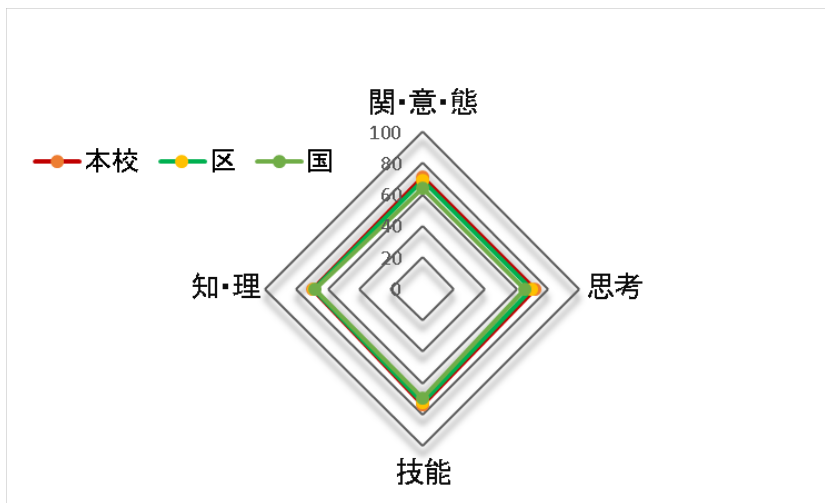
平成28年度 台東育英小学校 授業改善推進プラン

第6学年 社会

1 結果の分析

- ・観点別における正答率では、すべての観点で、全国、および区の平均正答率を上回っているが、社会的事象における知識・理解に関しては、平均並みである。
- ・工業生産についての正答率が全国の平均正答率よりも低い。資料の読み取りが課題である。問題の内容別正答率からは、工業生産と工業地域、世界の中の国土についての正答率が全国・区の平均正答率よりも低い結果となっている。特に日本の位置と領土についての理解に課題がみられる。工業生産と貿易に関しても、平均は上回っているものの、正答率が半分以下という結果である。

2 課題と改善策



	課 題	課題に対する改善策	今年度の成果(○)と課題(△) 来年度へ向けての改善策
社 会	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の位置と領土について理解していること (知識・理解) ・工業生産に関する資料の読み取りや、工業製品に生活が支えられていることへの理解などの工業に関する内容についての理解をすること (観察・資料活用の技能、知識・理解) ・森林資源の働きについて理解していること (知識・理解) 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史や3学期に学ぶ「世界の中の日本」の学習で地図帳を多用し、日本の位置関係などについて触れる場面を進んで取り入れる。 ・知識、理解の力を高めるためには、くり返しの学習が必要である。そのために、授業の導入で毎回、既習事項の確認を行う。そして、単元のまとめのテストだけでなく、既習事項を確実に身につけさせるために、ミニテストを定期的に行う。また、自主学習でも、歴史の人物や時代の調べ学習を行わせていく。 	<p>※3学期に改善策をもとに考察します。</p>

3 改善策の検証

- ・東京ベーシックドリル、区のフォローアップシートや単元テストを活用し、9割以上の児童の正答率100%を指標として確認する。
- ・単元後のミニテスト等を活用し、学習のめあてが理解されているか確認する時間を設ける。不十分な場合は、個別指導し、再度確認テストを行い定着を確認する。

平成28年度 台東育英小学校 授業改善推進プラン

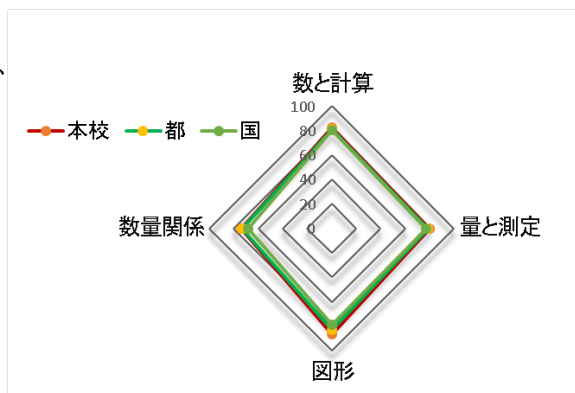
第6学年 算数

1 結果の分析

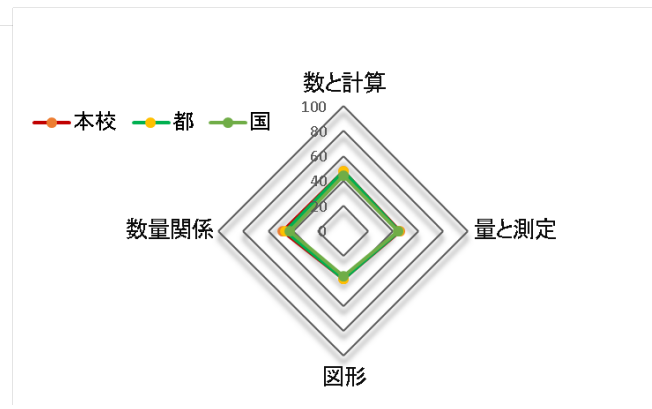
- ・「図形」領域での理解が図られており平均値を上回っている。
「数と計算」「量と測定」は平均並みである。観点別に見ると、「技能」が大きく平均値を上回っている。
- ・設問別に見ると、小数の足し算、単位量あたりの大きさを求める問題や除数が1より小さいとき、商が被除数より大きくなることを理解しているかを問う問題で正答率が低かった。

2 課題と改善策

算数A問題



算数B問題



	課題	課題に対する改善策	今年度の成果(○)と課題(△) 来年度へ向けての改善策
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・小数の計算は、小数点をそろえて計算すること (数と計算) ・単位量あたりの大きさを求めること (量と測定) ・小数の割り算の計算で、除数が1より小さいとき、商が被除数より大きくなることの理解 (数と計算) 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習を活用し、計算問題に取り組ませる。 ・朝の学習や宿題で、意図的に単位量あたりの大きさを求める問題にとり組ませる。また、「速さ」の学習時に、1あたりの考え方のよさを再確認しながら学習を進めていく。 ・授業の中で、文章題の立式をさせた後、除数と被除数の大きさを捉えさせ、答えの見通しを必ず持たせていく習慣を付けさせる。言葉で伝えさせたり、ノートに書かせたりする。 	<p>※3学期に改善策をもとに考察します。</p>

3 改善策の検証

- ・東京ベーシックドリル、区のリポートシートや単元テストを活用し、9割以上の児童の正答率100%を指標として確認する。
- ・単元前後のレディネステスト等を活用し、学習のめあてが理解されているか確認する時間を設ける。不十分な場合は、個別指導し、再度確認テストを行い定着を確認する。
- ・「生活・学習パワーアップシート」を活用し、家庭学習の状況を常に把握しながらミニテストを行い、学習の定着を確認する。不十分な場合は、個別指導し再度確認テストを行い定着を確認する。

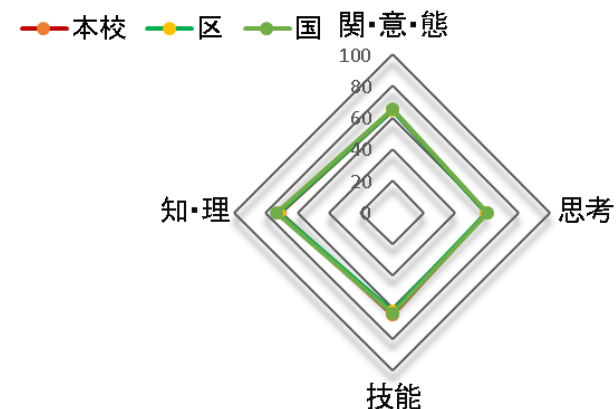
平成28年度 台東育英小学校 授業改善推進プラン

第6学年 理科

1 結果の分析

- ・領域別にみると、植物のはなのつくり、物のとけ方、人のたんじょうに関しては平均を上回っている。天気の変化やふりこのきまり、電流のはたらき、植物の発芽に関しては、科学的思考の力が不十分である。また、メダカの受精後の卵や顕微鏡の倍率に関する知識・理解が不十分である。
- ・観点別にみると、「技能」は平均を上回っているが、「科学的思考」「知識・理解」については、平均を下回っている

2 課題と改善策



	課題	課題に対する改善策	今年度の成果 (○) と課題 (△) 来年度へ向けての改善策
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・雲の動きを予想することや、天気を予想すること、電流の強さによる違いを調べるための条件を考えること、ふりこの時間と重さの関係を調べるための実験の計画などの科学的な思考について力が不十分である。(科学的思考) ・受精後のメダカの卵の様子や流れる水の働き、植物の発芽についての知識・理解が不十分である。(知識・理解) ・顕微鏡のレンズの倍率から、実際の大きさを求めること(観察・実験の技能) 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数で実験が実施できるように理科室の環境を整えるとともに、自分の考えとして予想をたてて実験に臨み、実験の結果を予想と合わせて、自分の言葉でまとめられるよう指導していく。 ・実験や観察後の振り返りの場面では結果を一般化し、科学用語も確実に使いながら、まとめるように指導する。 ・実験の予想、結果、考察といった思考方法を学ばせていく。 ・知識、理解の定着を図るために、導入時に毎回既習事項の復習を入れたり、復習プリントを定期的に宿題に出したりしていく。 ・顕微鏡の扱い方、倍率について改めて確認をする。 	<p>※3学期に改善策をもとに考察します。</p>

3 改善策の検証

- ・東京ベーシックドリル、区のリポートシートや単元テストを活用し、9割以上の児童の正答率100%を指標として確認する。
- ・授業中の発言や観察カード、実験への取り組み方などが、学習のめあてに即しているか確認する時間を設け、不十分な場合は、個別指導し再度確認テストを行い定着を確認する。